

# 被災地対応移動型 コンテナキッチン設置計画

人道支援活動隊 大きな和

2011/3/17



# 発起の動機



この度の東北地方太平洋沖地震の甚大な被害状況を報道等で繰り返し見聞きし、被災者の方々の辛さを想像すると共に、

日本の将来をも揺るがす大惨事を目の当りにして、自然災害の残酷さに人間の無力さを痛感させられました。

被災地の状況をテレビやインターネットで知る度に「このまま今まで通りの生活を送るだけで良いのだろうか?」「被災者の方たちに対し、私達で、何か出来ることがないのか」という思いが募り、限られた事しか出来ないが、この思いをどうにか具現化できないかと強く感じだしたのです。

そこで、被災を免れた地域の、心ある飲食店の皆様にご協力を願い、各店舗の愛情こもった手作りの味をそのまま提供出来れば、単に被災者の方々の食料不足の緩和という目的だけにとどまらず、温かい料理と共に私達の気持ちを届け被災者の方々を勇気づけ、少しでも心を癒すことが出来るのではないかとこの計画を進めだしました。

しかし、実行するに際しては、数々の問題点も生じ、予期せぬ事にぶつかる事も必至です。

被災地の状況、ニーズに即した活動を行う為にも、関係各機関との連絡、調整を行い、活動すると共に、各方面に働きかけ、賛同者を増やし、又、心ある方々の物心両面の御支援を得られれば、必ずこの未曾有の災害をも乗り越えて行けるのではないかと考え本行動を起す事となりました。

# 活動の精神



「雨ニモマケズ」宮沢賢治作

雨にも負けず、風にも負けず、雪にも、夏の暑さにも負けぬ、丈夫な体を持ち。  
慾はなく、決して怒らず、いつも静かに笑っている。  
一日に玄米四合と、味噌と、少しの野菜を食べ。  
あらゆることを、自分を勘定に入れずに、よく見聞きし、分かり、そして忘れず。  
野原の、松の林の陰の、小さな、萱ぶきの小屋にいて。  
東に病気の子供あれば、行って看病してやり。  
西に疲れた母あれば、行ってその稲の束を負い。  
南に死にそうな人あれば、行って、怖がらなくてもいいと言い。  
北に喧嘩や訴訟があれば、つまらないからやめろと言い。  
日照りの時は涙を流し、寒さの夏はおろおろ歩き。  
みんなに、木偶坊(でくのぼう)と呼ばれ。  
褒(ほ)められもせず、苦にもされず。  
そういうものに、私はなりたい。

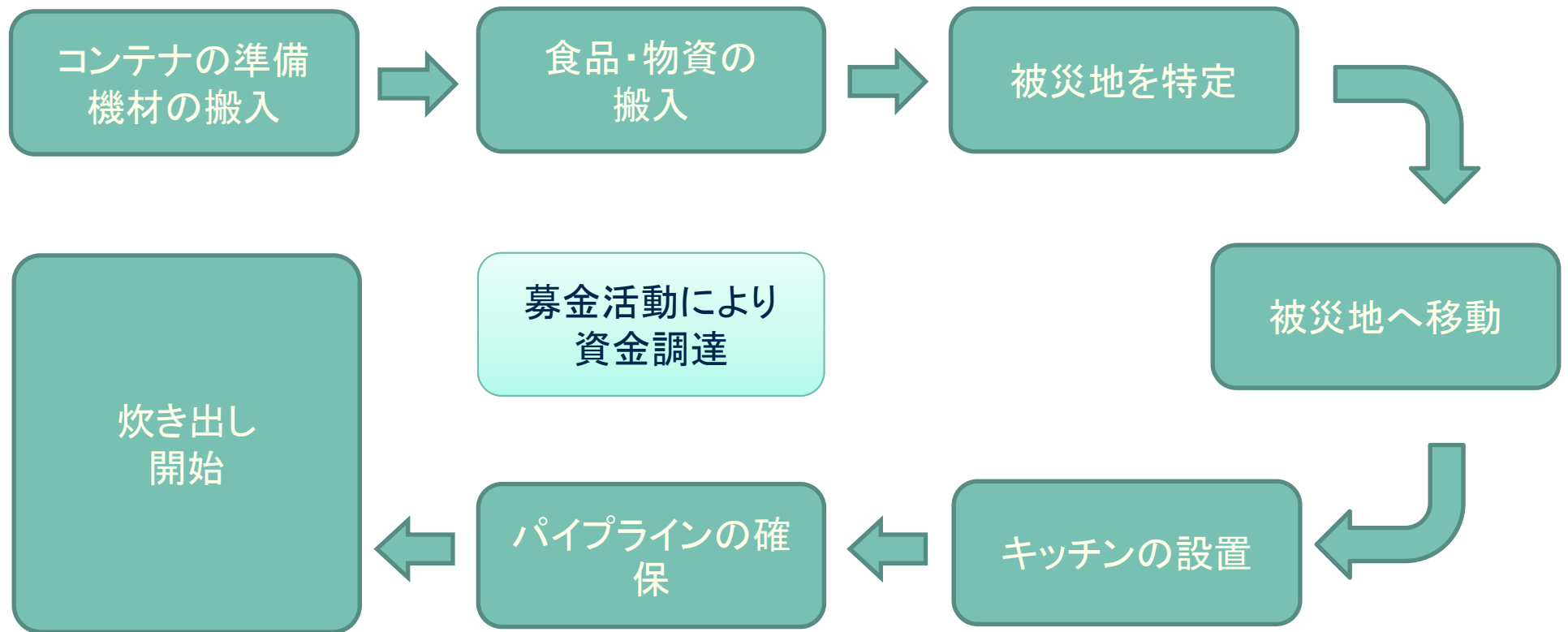
# 活動内容



## コンテナを改造した移動キッチンによる被災地での炊き出し支援

- ・各発起人、協賛者の負担により移動キッチン(コンテナ)の準備から現地設置までに関わる初期費用を賄い活動する。
- ・初期段階での食品および調理に関わる人的支援は、有志ラーメン店および各種飲食店有志の負担により賄い活動する。
- ・被災地における初期支援活動は、各発起人・協賛者が交代で現地入りして実施するが、並行して全国の有志を募り継続性を高める。又、場合によっては移動キッチン一式を他のボランティア団体等に提供してレトルト食品を使用した炊き出し作業などの有効活用を促す。
- ・炊き出し支援準備活動と並行し街頭及びインターネットを活用した募金活動、各種団体への支援協力依頼を進め、ボランティア活動継続の経費捻出を進める。
- ・第二次段階以降の活動は、募金活動により収集した義捐金等を基に、提供する食糧や物資輸送等の必要経費に当て、継続活用できるシステムを作る。
- ・応用活用方法として、被災者相互の移動キッチン使用の共同調理、炊き出し作業等による被災者相互のコミュニケーション構築による復興意識昂揚促進など、意見交換、リクエスト等を募り、多方面にわたる移動キッチン利用展開を模索してゆく。

# 活動の流れ



# 想定される懸念事項と 解決案1



## 1. 支援する被災地の特定

⇒暫定的に目的地として、報道等で被害が大きいとされている陸前高田等 宮城県、岩手県の県境附近の地域を想定して計画を進めているが、県レベルの情報交換(神奈川県—被災県) 又は、広域に亘るネットワークを持つ任意団体等により被災地の状況確認とニーズ、交通網の確認をして頂き、支援地の特定を行う。

## 2. 移動手段

⇒コンテナ、厚鋼板は協賛会社が復路分の燃料を含め、輸送まで負担協力。コンテナ輸送時は、厨房器具、現地組立用資材と共に、開きスペースを活用し支援物資等を積込める等、考慮する。

⇒現地組立人員は、工具材料と共に作業車にて分乗すると共に、アルミコンテナ付トラック(現在協力者 募集段階)で炊出し人員、食材と共に活動隊員の食料、支援物資他、必要物資を積込み運行する。現地到着後、荷降ろしの後、同車両を宿舎、休憩所として活用する。

## 3. 炊出しに関わる食器類他

食器⇒ A、どんぶり、箸等を使いきり(ワンウェイ)のものにする。(廃材発生、処分方法)

B、不要食器を集め現地まで運搬し使用する。(洗浄水、排水等が増加する、洗剤必要?)

燃料⇒鉄板加熱用燃料は瓦礫より木材を選り分け使用。(可否は自治体判断に従う)

# 想定される懸念事項と 解決案2



## 4. 被災地における水・ガス・電気の確保

水 ⇒ A. ポリタンクを現地へ持ち込むと共に現地直近で水の補充施設を確保する。

(近隣蛇口→ホース供給)

B. ポリタンクをコンテナ上部に設置すれば自然圧での給水となるが、設置場所を他の場合とする場合は小型ポンプが必要となる。(20Lポリタンク等で離れた場所からでも運搬補充は可能)

C. 設置箇所付近の給水装置が使用可能であれば直接接続する。(水道局扱い方)

ガス⇒ 近隣県からプロパンガスを輸送(近隣市町村協力メーカー)

電気⇒ 発電機を持参(運転音、ガソリン補充、メンテナンス)

排水⇒ A. 設置箇所直近に排水施設(使用可能な施設)が在れば直接放流する。

B. ポリタンク連結方法、(別紙図参照)により油水を極力分離し水は穴を掘り浸透処理するか、放流可能施設へ運搬し放流処理する。(設置場所は自治体の指示に従う)

又、分離された油分はチップなどと混ぜ合わせ焚付に使用するなど、他に有効利用できるかどうか等、検討する。

## 5. ボランティア活動隊員の食事・宿泊

⇒前述の通り、資材輸送用、アルミコンテナ付トラック(現在協力者 募集段階)を荷卸後、宿舎、休憩所として活用する。

⇒食事も現地持込する。(現地の負担を極力無くし、当団体が自給自足で対応できる体制を整える。)

# 人道支援活動隊 「大きな和」 について



発起人(順不同)： 桜庭信彦・山根純一郎・山崎雅俊・松尾義人・櫻井一郎 他  
所在地： 神奈川県海老名市東柏ヶ谷5-18-19海老名三紫ビル2F

## 協力業者

- ☆(有)ホシノコンテナ「コンテナ加工・移動設置」「災害時炊出し用鋼板及び高温耐熱架台」
- ☆(有)さくらい「キッチン・什器・備品提供」
- ☆(株)ホシザキ「設計アドバイス」
- ☆橋本工商「スクリーニング検査機(ガイガーカウンター)の提供」
- ☆桜庭工業「ガス設備工事(材料及び現地施工)」
- ☆(株)リーフスクリーンポリト「ユニホーム・広報旗の提供」
- ☆(株)トラスト住宅設備「設備工事(材料及び現地施工)」
- ☆(有)マックスアート「ホームページ制作・運営・事務所スペース提供(初期簡易事務共)」
- ☆神奈川大和道院/道院長 荒木誠吉「初期活動アドバイス、準備資材置場提供」

協賛： 大和リバティライオンズクラブ  
神奈川県少林寺拳法



# 移動型コンテナキッチン 今後の展開目標について



今回企画致しましたコンテナを改造した移動キッチンによる被災地での炊き出し支援であります。計画自体を進めていく間に、「この企画を広めてゆく事で、より有効性が高くなるのではないかと想像できる様になりました。

私たちの国は、周囲を海に囲まれ、特に東日本は細長い国土の中央付近に山脈があり、災害時には分断されてしまい、思うように救援活動等ができ得ない状況に在る様に見受けられます。

今回企画した移動コンテナキッチンは炊出しを目的とした支援活動という事でスタートは致しますが、今回一回限りの使用で終了するものではなく、目先を変えてやれば(後述の通り)今後起こりうる災害での被災地支援のひとつとして有効に機能することが予想される為、被災地支援及び災害対策の一環として定着させることを目指してゆきたいと考えました。

被災者の中にも調理師、理美容師、医師、看護師等々、多方面で活躍されていた方々が多数いらっしゃるのではないかと考えられます。

しかし、被災地では場所や物資が不足している為、やりたくても出来ないという状況が考えられます。

そうした時に、機動性に富んだコンテナで一度に支援所と支援物資の両方が提供でき、被災者の協力を得ながらの支援が可能になると考えられます。

又、災害時のみの使用と限定せず、イベント活動等にも流用可能な施設として有効活用が期待できます。

今回の支援活動が、災害時の支援のひとつの手段として認知され、全国的、又、世界的に展開されるようになることを目標とします。